

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会  
平成28年度第4回理事会 議事録

【開催日時】平成28年7月14日12時から13時10分まで

【開催場所】東京ドームホテル 5階「吉祥」

【出席した理事】田口敏彦、岩崎幹季、大川 淳、川上 守、島田洋一、  
竹下克志、種市 洋、徳橋泰明、永島英樹、中村博亮、  
中村雅也、根尾昌志、波呂浩孝、前田 健、山崎正志、  
山下敏彦

【出席した監事】加藤文彦、松永俊二

【議事の経過の要領及びその結果】

田口敏彦理事長は定款の定めにより議長となり、開会を宣言し、直ちに議事に入った。

### 審議・決議事項

#### 1. 会員審査（5・6月分）

島田洋一理事が、資料1に基づき平成28年5月6月度の入退会審査結果を示し、メンバーシップ・コンプライアンス委員会内では全員が承認した旨の報告を行い、議場に諮った。各理事は、慎重に審議し、全員一致でこれを承認可決した。

#### 2. 英文誌『SSRR』の表紙デザインの件

根尾昌志理事が、英文誌『SSRR』の表紙の案を再提出し、議場に諮った。各理事は、慎重に審議し、全員一致でこれを承認した。続けて、投稿規程案を提示した。本年10月1日より投稿受付を開始予定のため投稿規定案に質問があれば、8月末までに根尾昌志理事が英文誌編集委員会折田純久委員長へ連絡することとし一同了解した。

#### 3. 委員会リストの最終承認の件

田口敏彦理事長が、別添資料3に基づき委員会のメンバーリストを提示し最終承認を求めた。前回のリスト提示から変更のあった点などについて説明が

なされた。英文誌編集委員会に伊東 学先生、教育研修委員会に西良浩一先生、倫理委員会に長谷川 徹先生の追加が承認された。田口敏彦理事長が、新技術評価検証委員会委員および委員長の辞退を受理したと報告し、新委員の補充と新委員長については委員会内での互選で決定することとした。

#### 4. 技術認定委員会について

田口敏彦理事長が、技術認定委員会の存続について議場に諮った。慎重な審議がなされた結果、技術認定委員会を新技術評価検証委員会に合併し、新技術評価検証委員会を窓口とすることで承認した。

#### 5. 第48回学術集会担当コンベンション選考について

徳橋泰明副理事長から第48回学術集会担当コンベンション選考について説明がなされた。各理事は、慎重に審議し、学術集会プログラム等検討委員会の検討結果を承認し、コングレに確定した。

#### 6. L I F 関係継続調査等について

新技術検証委員会の岩崎幹季担当理事よりL I F 合併症調査の継続について説明がなされ、提出症例の実施期間について議場に諮った。審議の結果、本年度は平成27年4月1日から12月末の症例を、その後は毎年前年の1月から12月末までの一年間を対象とすることに決定した。また、調査に係る事務費の見積もりが提出され、審議の上、承認された。

#### 7. 名誉会員の会費の件

大川 淳理事長が、規程等に定められていない名誉会員の会費について議場に諮った。審議の結果、今年度分については納めていただき、無料になるのは来年度からとすることが承認された。

#### 8. 頸椎人工椎間板の適正使用基準作成について

大川 淳理事長が、頸椎人工椎間板の適正使用基準作成するワーキンググループを当学会と日本脊髄外科学会とともに立ち上げてほしいとPMDAから依頼があったことを報告した。理事長名で申請すれば、PMDAから予算がつくため、新技術検証委員会で検討することとし、一同承認した。

## 9. その他

- ・脊椎脊髄病研修コースとしての腰椎側方進入あるいはLIF手術を設ける件  
竹下克志理事が、腰椎側方進入あるいはLIF手術のコースを第 Ⅰコースに組み込んで実施する、教育研修委員会の案について、議場に諮った。審議の結果、全員一致でこれを承認した。

### 審議・報告事項

#### 1. 脊椎脊髄外科専門医制度の件

波呂浩孝理事が、7月4日の当学会と日本脊髄外科学会との作業部会で、専門医事務局を毎日学術フォーラムに委託することが決定したことを報告した。また、2016年7月11日（月）～9月9日（金）まで書類必着で、脊椎脊髄外科専門医研修プログラム基幹研修施設新規申込を受け付けていること、試験のための問題集を南江堂より発刊、またその問題集を使った試験を行う予定であることが報告された。専門医機構の動向を確認しながら脊椎脊髄外科専門医制度を進めることで一同了承した。

#### 2. C01 書類提出の件

前田 健理事が、委員会メンバーにC01書類の提出を依頼することを報告し、一同了解した。

#### 3. その他

##### ・新技術検証委員会より報告

- (1) 岩崎幹季理事が、NuVasive社のXLIFの神経モニタリング回収に関して説明がなされ、クラス IIIで再申請中であることが示された。理事長名で厚労省に早期解決にむけた要望書を提出することならびに「モニタリング回収に関して」の情報を本学会会員向けのホームページに掲載することについて議場に諮った。各理事は、慎重に審議し、全員一致でこれを承認可決した。
- (2) 岩崎幹季理事が、今年度の本学会で報告したOLIF・XLIF合併症調査報告の内容を新技術検証委員会委員が講演などで利用することの許可を求めた。一同検討の結果承認した。

- (3) 椎体形成術の後発品についての適正使用と教育・研修システムなどの学会としての対応に関しては、教育研修委員会にて検討していくことになった。
- (4) OLIF・XLIFの後発品の適正使用と教育・研修システムなどに関して、学会としての姿勢を明確にする必要があるため、学会主導で講習会や教育研修会を企画する場合の具体的方法の検討することとなった。
- (5) 上記に関連して、今後の新技術に対する当学会の基本方針としては、窓口を新技術評価検証委員会としつつ、ワーキンググループなどを各論的に発生させ、それぞれで検討していくことに決定した。

所要の議事を全て終了したため、議長は、閉会を宣言した。

以 上

平成 28 年 7 月 14 日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 田口敏彦

監 事 加藤文彦

監 事 松永俊二